



シラズセーフコミュニティ 認証取得への取り組み

③ テーマ 子どものけが・事故予防

小さいお子さんのけがや事故の多くは、実は、家の中で起こっています。今回は、家の中のけが・事故を防ぐために「子ども事故予防センター キッズセーフ」を紹介します。

豊島区健康推進課 ☎3987-4173
長崎健康相談所 ☎3957-1191

Q1 家の中のけがや事故はどのくらい起きているのですか？

A 平成22年度に実施した「子どものけが・事故に関するアンケート調査」の結果を0～5歳の人口にあてはめると、月に100人以上も入・通院していることとなります。また、そのうちの約6割が家庭内で起こっています。

乳幼児のけがや事故の発生状況

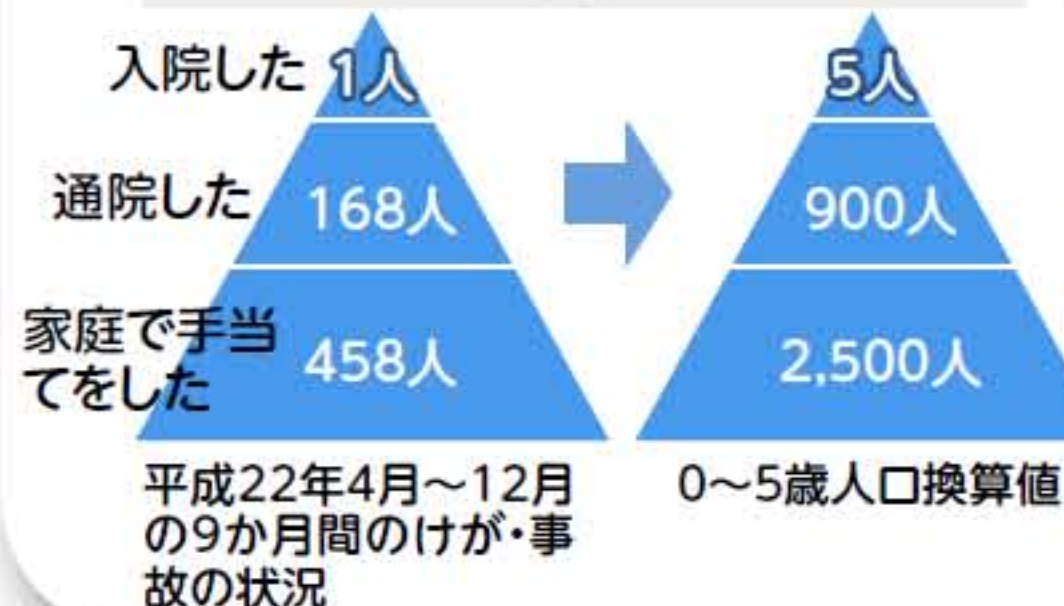
医療機関にかかるような「けがや事故」の経験がある
169人(10.3%)
(平成22年4月～12月の9か月間)

そのうち、場所が「家庭内」
99人(約6割)

けが・事故の種類

第1位 「転倒・転落」 50件(51%)
第2位 「やけど」 18件(18%)
第3位 「挟まれ・接触・衝突」 13件(13%)

豊島区の0～5歳の人口にあてはめると…



※対象…区立保育園0～5歳児クラスの保護者(回答数1,640人)、ただし保育園内のけが・事故を除く。速報値。

家の中での子どもの
けがや事故を
予防するために

何が課題なの？

各家庭でのけが・事故予防策の実施が徹底されていないこと

その対策は？

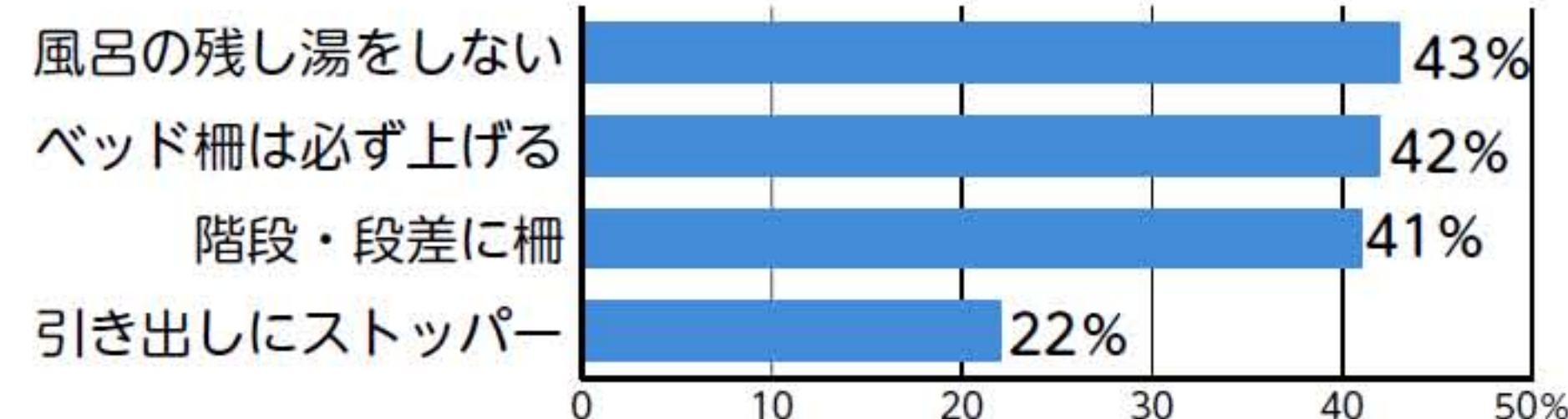
子ども事故予防センターによる情報提供

そして、
「効果の検証」
↓
「対策の改善」へ

Q2 家庭でのけが・事故予防策の取り組みは？

A まだまだ取り組む余地があります。例えば、子どもの家庭での不慮の事故による死因の第1位は、浴槽内でのでき死ですが、予防策「風呂の残し湯をしない」の実施率は43%でした。また、アンケート調査で最も多かった「転倒・転落」事故を予防する、「階段・段差に柵」の実施率も4割程度です。家庭での予防策の徹底が子どもをけがや事故から守ることになります。

予防策の実施率



(平成22年12月実施「子どものけが・事故に関するアンケート調査」より)

Q3 「子ども事故予防センター キッズセーフ」は、どのような施設ですか？

A 見学した保護者の方が、家庭環境に合わせて予防策を選択し、取り組めるよう、玄関、階段、台所、お風呂などの実寸大のモデルルームになっています。

家の中のどこが危なくて、どう工夫するとよいかを一目で見ることができます。



Q4 「子ども事故予防センター キッズセーフ」はどこにありますか？

A 池袋保健所の2階にあります。是非一度お立ち寄りください。

豊島区健康推進課 ☎3987-4173
利用時間:月曜日～金曜日
午前9時～午後5時
休館日:土・日曜日、祝日、年末年始
※詳しくは区ホームページ
トップ>子育て教育>子どもの健康を参照(アドレス上部欄外参照)。

※事業の関係上、見学できないこともあります。あらかじめご了承ください。

